



《学年の先生より》

心を耕せ

第 1 年次 6 組担任 H



1 年間の高校生活はどうだっただろうか。中学までとは違い、勉強内容が格段に難しくなったと感じたことと思う。そのような中で「将来使うことがないのに、なぜ勉強しないといけないのか」という言葉を口にする者がいる。学校では必ずしなければならない勉強がある。では、なぜ勉強しなければならないのか。これに関して、あの太宰治はこう書いている。

『勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思う人もいるようだが、大間違いだ。(中略) 物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強して置かなければならん。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベートされるということなんだ。カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記している事でなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するという事を知る事だ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいかん。ゆつたりと、真にカルチベートされた人間になれ！』(「正義と微笑」より)

「カルチベート (cultivate)」、「カルチュア (culture)」はどちらもラテン語で「耕す」という意味をもつ「colere」を語源にしている。太宰の言う「カルチュア」とは、心を「耕す」ことで精神が向上し、その結果身に付く「知性」や「教養」を指す。それは過去の人々が経験して発見してきた知識を自分のものとする事で、自分にはない様々な考えを理解するという「広い心」を持つことである。そして、それが「愛する」ということ、つまり「他に心を寄せ、他を理解する」ことにつながるのだろう。「不勉強な者はエゴイストだ」という太宰らしい表現も見られるが、勉強しないと心は狭いままで、自分の中の狭い考えでしか物事を捉えることができないがために、他に心を寄せることもなく、自分とは違うものを受け入れることもできないということではないだろうか。

学校での勉強は直接将来役に立つものばかりではない。しかし、「勉強の訓練」を通して「精神的に耕された人間」になることができるということだ。その訓練は苦しく、容易なものではないだろう。そのようなこれからの「学び」を通してどのような人間になるのか。私は、将来皆さんが「一つかみの砂金」を手にすることを願っている。

《下校時刻について》 3 月からの下校時刻は以下ようになっています。

もう一度確認して下さい。

下校時刻 (校門退出時刻) **3 月～10 月** **18:30**



《 “元気が出る” 講演会 》

育英会の主催により、今、講師として大人気の岩崎由純さんをお招きして講演会を実施しました。



●演題「言葉のちから 無限大！」

3月8日（月） 神戸芸術センター

講師： 岩崎由純

（日本ペップトーク普及協会代表理事）



●講演内容より

- ・「できなきや坂道ダッシュ」のような失敗を前提にしている言葉はやる気をなくす悪魔の言葉。やる気を引き出すには相手が成功している姿を言葉で伝えることが大事。
- ・上司や指導者にはミスを指摘することが自分の仕事と勘違いしている人が多い。求められているのは相手の次なる積極的行動を引き起こすことです。
- ・自らダメ出しをして自信をなくしていく習慣が多くの日本人の思考習慣となってしまう。「どうやったらできるだろう」というポジティブな課題解決の言葉をかけることが重要なのです。

●生徒の感想より

- ・私も、これからはポジティブな言葉を意識して発して、何事にもあきらめずチャレンジして行きたいと思います。
- ・自分だけでなく、他の人にもポジティブ語で元気づけたり、励ますことのできる人間になりたいと思いました。
- ・特に「セルフペップトーク」を大切にしたいと思いました。目標のために自分自身に向けた「言葉の力」を前向きに変えていきたいと考えました。
- ・特に印象に残っているのは、「夢を持ち続けていれば、形を変えず、もしくは形を変えて実現できる」という言葉です。
- ・部活の本番では、100%の力を出し切れないことが多いのですが、今日、聴いたことを実践していこうと思いました。
- ・「ただの根性論」？と決めつけていましたが、言葉の力の偉大さを実感しました。

《球技大会》 3月16日（火）男女サッカー

◆男子優勝： 1組

2位： 6組

◆女子優勝： 4組

2位： 5組・6組

◆総合優勝： 4組・6組

3位： 1組



《進路講演会》 「夢をかなえる一生ものの勉強法」

●3月15日（月） 1・2時限

講師： 木村達哉（灘中高等学校教諭）

学年の進路行事の一環として、「ユメタン」の著者で灘中高等学校教諭の木村達哉先生をお招きして、勉強法についての講演会を実施しました。

自らの体験談をもとに、ユーモアあふれる語り口調で、わかりやすく話していただきました。

「自分の得意分野を見据え、夢を追いかけながら努力することにより自分の人生を豊かにすることができる」というメッセージには、共感した人も多かったのではないのでしょうか。



●生徒の感想より

- ・今回の講演会で、英語の勉強において大切なこと、勉強すべきことなどが明確に分かりました。
- ・今回の講演会では、自分の人生についても少し考えることができたと思います。何をすれば楽しめるのかということ、これからも大切に、自分の将来実現をしていきたいです。
- ・自宅学習がほとんどない状態だから、英語を読むだけでも勉強を始めたいなと思いました。
- ・まず将来について真剣に考えようと思いました。
- ・今日、学んだ勉強の仕方を変えれば、結果も変わるかもしれないということを信じて、来年の英語、将来の英語に取り組みます。
- ・今回の講演会で一番印象に残ったのは、「自分の好きなものを追求して、それでみんなを笑顔にできればいい」という木村先生の言葉だ。
- ・今回の講演で、自分の英語が伸びない理由が分かりました。それは日本語が低いからです。



《英語科「ユメタン」テスト 年間成績優秀者 表彰》



1位	5組 24番	中村 陽	354/360
2位	3組 2番	石田 莉奈	350/360
3位	1組 16番	小柳 智也	349/360
3位	1組 20番	佐々木 草太	349/360

表彰！！ 《兵庫県ビブリオバトル高校生大会 入賞》

昨年12月26日（土）に令和2年度兵庫県ビブリオバトルが行われ、4組の安川さんが兵庫県で4人に入選しました。

敢闘賞 1年4組 安川 穂夏

『きみの友だち』

著者 重松 清

出版社 新潮社 出版年 2005年



《4月の行事予定》

4月 8日（木） 着任式・始業式 大掃除 HR ※ネクタイ着用！

注意 ★登校したら、下足ロッカーの私物をすべて教室に持ち上げる。
★4階の旧クラス番号の教室に入ること。

9日（金） 対面式・離任式 ★登校したらすぐに荷物を置いて体育館へ
課題考查 4限 国語 5限 英語 6限 日・世/化学
〔数学Ⅱの課題考查は、最初の授業で実施〕

13日（火） 総合的な探究の時間講演会（3・4限） 1・3年結団式 午後放課

14日（水） 3年修学旅行（～16日） 1年オリエンテーション合宿（～15日）

16日（金） 2年校外学習（京都）

21日（水） 須磨東交流戦

23日（金） 歯科検診（午前）

26日（月） 身体計測（午後）

27日（火） 歯科検診（午前）

28日（水） 耳鼻科検診（午前）

30日（金） 歯科検診（午前） 眼科検診（午後）



《編集後記 ～新しい春を迎えて～ 》 1年次 学年担当 K

休校中、自宅で迎えた春からはや1年が経ちました。大災厄の中のこの1年を、みなさんはどのように振り返りますか。

社会環境の複雑性が増し想定外の出来事が起こり、将来予測が困難な状況を「ブーカ（VUCA）」と言います。5年後、10年後の未来が見えない、有名大学、大企業に入っても、この先どうなるかわからない。そして、本当に自分がやりたいことが見えない、みなさんは、今まさに「ブーカ時代」に生きています。

しかし、現実には10代で明確な将来像を描ける人はそう多くありません。シャカが出家したのは29歳、イエスが宣教を始めたのは30歳、ムハンマドが啓示を受けたのは40歳です。そして、「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される」という研究理論もあります（「計画された偶発性理論」）。ようするにこの世の中の多くの人は、年来の夢を実現したのではなく、たまたま、偶然、やることになった仕事に就き、そして活躍している人が多いということです。この3月には2回の講演会がありました。オリンピック選手になりたくても、プロ野球選手になりたくても、なかなか叶わない。実現しないから夢なのです。それでは、どうすればいいのか。

2人の講師の方は、「今をどう生きるか」をわかりやすく提示してくれました。今、自分の目の前にいる人や仕事、チャンスなどの出会いを大切にすれば、自ずと未来は拓けるという非常にポジティブな考え方・生き方です。今を全力で生きているからこそ、次に繋がる。不安はあるけれど、心をオープンな状態にして、物事を前向きにとらえ、目の前の一つひとつに取り組む。あまり先のことばかり考えないで、今をしっかり生きよう、ということです。まずは、この春休み、そして、次、その次……。



